

みやけの風

第 133 号

平成15年(2003年)7月19日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

梅雨明けの待たれる今日この頃ですが、皆さまいかがお過ごしですか？滞在型帰島の後、体調を崩される方の話をよく耳にします。久々の重労働のわりに、島では、我が家に帰れた喜びで疲れを感じないのだけれど、避難先へ戻ってからがっかり疲れがきてしまうのだとか。風邪のような症状が長引いている方は、お医者さんに見ていただきましょう。

みんなの声

全島避難からもうすぐ3年

“帰島”という2文字が頭の中を行ったり来たりしている今日この頃、考えていることをまとめてみました。

雄山の火山ガスが治まるまで、これからどれ程の年月がかかるのか？火山ガスと共生して島で生活するというけれど、身体の弱い者、子供、要介護者には、無理な話だとも聞く。そういう家族を守らなければならない人たちもまた、島に戻ることはできなくなる。

火山ガスがおさまらない限り、避難生活は続くと考えた方が無理がないし、結局、こんな状態で島に帰るか否かという二者択一は成り立たない・・・。

それより、どうしたら復興できるのか？そのためには、今、何をすべきか、と考えた方が一歩前に進めると思う。

ガスに強い木を植えたり、ガスが比較的少ない地域を中心に、環境を整備し、産業（農、漁、加工業等）を開始し、産物、製品を東京で売る。

毎月、定期船が島に発着し、島民が自分の家を手入れするために、自由に往来できる環境を整備する。（もちろん島内で車を自由に運転できるようにすることも含む）

滞在型帰島による復興に参加できる人を増やすためには、島内の整備と同時に、都内に身体に弱い家族や子ども等をショートステイのような形で保護できる場所を創ることも急務だ。ひとり暮らしの老人で、自分で復興に参加できない人のためには、代理人（島民でない人）も、島民の扱いで参加を認める。

考えることは、個人の力で何とかなる問題でないことばかり。それでも、どうしたら三宅島が復興できるか？それぞれの立場

から真剣に考え、実行していかない限り、一歩も前には進めないと思います。

一日も早くガスがおさまり、島民全員が安心して帰島できることを祈る日々。『みやけの風』の紙面やいろいろな機会をとらえて、皆さんで日頃考えていることを交換できればと思います。（港区 宮下 淑子）

こんなうれしい話

八王子うたごえの会から三宅島の人たちも一緒に唄おうというお誘いがありました。そこで、7月11日(金)、せっかくのお誘いなので、八王子市子安1・2丁目町会会館に行ってきました。アコーディオンに合わせて、大きな声で唄っていました。

しばらくして「今日は三宅島の人も来ています」と紹介されました。

すると突然、席を立てて私の手をしっかり握り、「三宅島の人なの？私は高齢者の配食サービスの仕事をしています。げんき農場からジャガイモや野菜などたくさん届けていただき、お弁当を作って届けて皆に喜ばれています。ありがとう、ありがとう」と、くり返しくり返し、喜びと感謝の言葉をいただきました。

私は何もしていないので戸惑いましたが、「げんき農場の責任者の方が一緒に団地にいますのでこのことを伝えます。きっと喜んでくれると思います」と伝えました。

八王子に避難してきていつもお世話になってばかり、何か役に立つことはないかといつも思っていましたので、げんき農場で働いている皆さんにもこんなうれしいことをどう伝えればよいか迷っていました。ゆめ農園働いている方たちも、イベントなどで鉢植えなどを配布している時、たくさんの方が列をなして並んでくれているのを見

て、作る喜びを感じていることと思います。
『ふれあいコール』の活動のときに、支援センターでこのことを話したところ、『みやけの風』に原稿をとという話になりました。うれしい話、皆さんにお伝えしたくて筆をとりました。
(上柚木 鈴木 則子)

三宅島西の風椿山窯が Gallery西の風オープン

三宅島の西の風椿山窯も噴火後荒れ果てたままですが、三回の滞在帰宅で、少しずつですが楽しみが出てきました。

この度、東京中央線JR国立駅南口前に、Gallery 西の風をオープンする事が出来ました。持ち帰った噴火灰の作品は、東京立川で作陶したものです。三宅島の火山灰が様々に変化する釉薬の窯変の世界を見に来て下さい。

生活食器など展示してありますので、お近くにお出での節はお立ち寄り下さいませ。お待ち致します。

あの広い大学通りに桜とイチョウ並木、国立は大変オシャレなGallery (ギャラリー) の町です。どうぞお茶でも飲みながら、ぶらりくにたちに。

この三年間に、多くの陶芸家の方々にお世話になり、三宅島の火山灰が良質の釉薬である事も知って頂きましたが、残念な事に島の土囊に入れて積んであるあのやっかいな灰は、今は釉薬としては使えません。

風雨にさらされ、もうただの土に帰ってしまい、畑の土と全く同じになってしまっているのです。その中に稀にですが、畑で使った肥料の空き袋に詰った灰が、今、私の作品を助けてくれております。思い出しても嫌な灰ですが、あの時のあの硫黄の匂いのする厄介者の灰が、大変貴重な灰になっています。

九月の滞在帰宅にも行きますが、この貴重な灰が皆さんの所に見当たりましたら、是非保存していただき、私までお知らせ願いたく思います。

自然の力は私達に、もう帰っても野菜作りや作物は何でも出来ますよ、と教えられているような気がします。

三宅島西の風椿山窯 島澤忠保
三宅島三宅村伊豆315
立川市羽衣町1-14-8
Tel & fax: 042-524-0867



ギャラリー西の風

国立市中1-9-12 TEL & FAX : 042-524-0867 042-572-9675

<http://homepage.mac.com/nisikaze/>

E-mail : nisikaze@mac.com

もぐらの家による三宅島災害パネル展

三宅島がくあじさいの会と避難前からお付き合いがあり、島民がデザインしたT-シャツを作って、売上の一部をがくあじさいの会に寄付して下さっているもぐらの家では、三宅島のことをたくさんの方に知っていただくとう『三宅島災害パネル展』を開催します。あわせて、バザーなども行ないますので、お誘いあわせの上、お出かけください。

イベント名：2003江戸川区ボランティアフェスティバル

日時：7月20日(日)10:00~16:00

場所：タワーホール堀船 1Fフリーマーケット会場

(ただし、12:00~14:00はタワーホール堀船 3F体験コーナー)

イベント名：もぐら祭り

日時：7月27日(日)10:00~16:00

場所：もぐらの家 館内および中庭(江戸川区春江町3-21-6)

内容：焼きそば・カレーライス・カキ氷・雑貨、中古衣類販売・三宅島災害パネル展

(ただし、12:00~14:00はタワーホール堀船 3F体験コーナー)

問合せ先：03-3679-0110 社会福祉法人つばき土の会 もぐらの家